

受領者投稿

患者さんに幸せを“リンク”する

—— オムロン MedicalLINK と高血圧遠隔診療の夜明け ——

東京女子医科大学 高血圧・内分泌内科 准講師 谷田部 淳 一

(2013年度受領者)

私と立石科学技術振興財団をその名の通り“リンク”させたのは、オムロンヘルスケアが2012年に開始したMedicalLINKサービスでした。これは、Wifiルータやスマートフォンなどの通信機器を一切必要とせず、家庭血圧計そのものにSIMモジュールを搭載することで、測定された血圧がたちどころにサーバに伝送され、患者さんと医師がその記録と解析結果をリアルタイムに共有できるという、高血圧限界における初めてのIoTともいえる画期的なサービスです。昨年30周年を迎えた大迫研究の成果に倣った全市民的活動を目指し、MedicalLINKサービスを利用して家庭血圧を測定するごとに地域通貨でインセンティブを受けられるようにした「あいづじげん健康ポイント倶楽部」を2013年8月より開始しました。この活動により収集された家庭血圧データや検診結果などをPersonal Health Record (PHR) 化して分析する研究を提案し、立石財団にご採択頂きました。この血圧測定事業は市民から概ね好評を博し、Hypertension Research へのLetter (Hypertens Res. 2017 Feb 23.) を皮切りにいくつかの成果を発信しています。

2015年4月には故あって、福島県立医科大学から東京女子医科大学へと所属を移しました。個人的なことにはなりますが、妻も同じ医局に所属し、長男長女は大学から数分のプレスクールにて元気に日々を送っております。一家で大移動となりました。右も左もわからない都会生活や慣れない診療の中で不安なスタートでしたが、家庭血圧に関する活動は継続することができ、ほどなく新しい縁が生まれました。きっかけは2015年8月に、今まで離島やへき地においてのみ実施が認められていた遠隔診療が、事

実上の解禁となったことです。昨今のひっ迫した医療供給体制を鑑みると、あらゆる効率化が不可欠です。また多様化した現代社会において、通院に長時間を要したうえに、さらなる待ち時間を画一的に強制される対面診療は、非効率の代表です。むろん今までは、暗黙知に基づく緻密な診療が患者さんの利益となってきたことに疑いはありません。しかし今や、高血圧分野における診療手法は形式知に基づいた最適化を目指し、高血圧であっても医療的対応を受けていない約3000万人の国民に対していかに広くその恩恵をもたらすかを考えるべきです。そこで私たちは、【IoT血圧計とスマートフォンによる遠隔診療プラットフォームを活用した非対面型遠隔診療の有用性を検討する研究】を始めました。非対面となる遠隔診療をMedicalLINKサービスで補完し、むしろより精密な高血圧診療を提供しつつ、処方薬の受け取りと医療費の支払いまですべて無通院で終了させることの安全性と有効性を検証する臨床試験です。高血圧診療のレベル向上は皮肉にも、受けられる医療の質や量に格差をもたらしました。高血圧遠隔診療の標準的な実施法の確立と普及が、その格差(=Hypertension Paradox) 解消に寄与するものと信じています。もっと多くの高血圧患者さんに幸せを“リンク”する技術やサービスの創出に関われていることに感謝を感じる、今日この頃です。

